

2020

認定特定非営利活動法人 Future Code
活動報告書



Bridging to the future for global health

2021 年 6 月 1 日

Haiti

孤児院食糧および医療支援



2020/10

ハイチの孤児院で食糧の支援を行いました。23 名の子どもが暮らしていますが、支援の状況は、この世界的な新型コロナウイルス感染拡大もあり、支援は激減し、生活環境は非常に悪化しています。

見通しはなかなか立たず、刻々と状況は変化して悪化しておりますが、我々としても、この世界情勢の中でもできる支援を続けていくつもりです。



2021/3

ハイチの42名の子どもたちが暮らす孤児院に対して、食糧、ベッド、手洗い石鹸などの支援を行いました。

世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、どの国でも支援は減少する中であり、孤児院での生活は大変厳しいものです。今回のこの支援の食糧は、今後4ヶ月の栄養のサポートとなります。またこの孤児院では、ベッドが足りていない中で、一つのベッドで3人から4人もの子どもたちが眠っていましたが、今回は少しでもゆったりと眠ってもらうため、15床のベッドを提供しました。

手洗いなどの衛生教育も含め、今後もFuture Codeはサポートを行っていききたいと思います。

ハリケーン被災病院の再建後のフォローアップ



2020/9

ハイチのジェレミーにて、ハリケーンで倒壊後、私たちが再建を行ったクリニックに医療用ベッドや、体温計や血液検査等も含めた医療資材を提供しました！

このクリニックはこの地域に住む3万人をカバーして医療を提供する唯一の医療機関であり、しかしながら医療機器や資材があまりに足りないことも問題の一つでした。今後はこのベッドを使用して簡単な外科処置や、出産までに使用されることとなります。

現地の医師や看護師長からも喜びの声を頂きました。より多くの住民に、よりよい医療が届けられるよう、定期的に我々もクリニックを訪問し、今後も必要な支援を続けたいと思います。

Burkina Faso

マラリアの予防と啓発活動

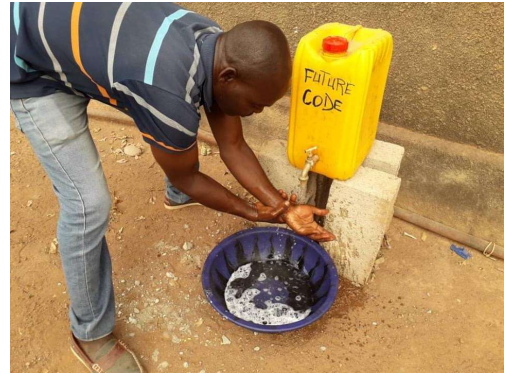


ブルキナファソでは継続してマラリアの予防と啓蒙活動を行っております。
このブルキナファソでは新型コロナウイルス感染症だけではなく、蚊が媒介する感染症であるマラリアは子どもが死亡する原因となる、大きな脅威の一つです。今回も 1582 名を対象に、一軒一軒を訪問し、マラリアを予防する蚊帳の有無や、その状態と正しい蚊帳の使い方をチェックし、蚊帳が足りない家には蚊帳を配布する活動を行いました。雨季であり、非常に多くの蚊が発生しており、マラリア患者も増加しています。しかしながら幸い、マラリアに罹ってしまったこの地域の 5 歳以下の子どもや妊産婦の全員は、医療機関で治療をすることができています。また、この担当地域では、住民のマラリアに対する予防の意識を大幅に高めることに成功しています。

今後も新型コロナウイルス感染拡大予防と共に、このマラリアに対する予防と治療活動を継続したいと思います。

新型コロナウイルス対策





2020/4

世界的な問題である新型コロナウイルス感染は 2020 年 4 月時点でこのブルキナファソにも発生が確認されており、すでに都市では移動も制限されていますが、西アフリカでは医療体制や設備の脆弱性から、さらなる感染の爆発的拡大が懸念されています。

住民たちからも多くの不安の声が上がっておりますが、上水道設備などもない地域であり、予防のための手洗い自体が困難でもあります。

そこでウイルス感染予防のため、緊急プロジェクトとして活動地である、サンビ村やクーペンタンガ地区に合計 200 個、地域の医療センターに 400 個の手洗い用の液体ハンドソープタンクの設置を行い、住民に向けてウイルス感染予防の知識等の普及活動、予防の啓発と共に手洗いの指導を開始しています。

2020/5

前回に引き続き、さらに 1099 人の住民を対象に、合計 300 基の手指消毒タンクを設置しました。これに合わせて住民に感染症に対する衛生指導も行っています。

現地の感染の現状は、まだまだ医療施設や機材の不足が慢性的にあり、正確に把握することは非常に困難です。しかし日本同様に都市封鎖を続けることも困難を伴い、街は徐々に封鎖解除されるしかなく、マーケットや学校などは再開されています。しかし同時に感染拡大の可能性についても報告があり、懸念されています。

住民の衛生感覚の向上に努めながら、今回の新型コロナ感染のみならず、できる限りあらゆる感染症から身を守る習慣を育てることも目的です。

今回の新型コロナ感染症は、一国だけが感染を制御できたとしても結局は周囲や交流のある国々で再燃してしまうため意味は小さく、世界的に取り組む必要があります。これからも現地と協力しながら、小さな取り組みだとしても我々にできることに努力し、実行いたします。



2020/11

ブルキナファソでは新型コロナウイルス感染症の発症は2020年11月時点では低下傾向にありますが、手洗いの習慣は他の感染症を抑えるためにも重要な感染予防対策であり、今回は各学校に手洗い用のタンクを設置しました。90か所のクラスルームに設置し、合計子どもたちと先生を合わせ5400名が手洗いが可能となります。引き渡しの際にはサボネ市の市長も参加され、セレモニーが行われました。

これからも我々としては手洗いが常にできる環境整備を整えていきたいと思っています。

水と衛生の改善活動



昨年より継続中

新型コロナウイルス対策プロジェクトと並行して、昨年末より計画し、住民からの要望であった20基のトイレをクーペンタンガ村に建設しています。

西アフリカのこの国では、新型コロナウイルスだけではなく、そもそも日常に多くの感染症があり、下痢疾患によっても毎年多くの子どもが亡くなります。

新型コロナウイルス対策の手洗い指導とあわせて、住民に衛生、感染症に対する啓発を行い、子どもたちの命を奪う下痢疾患をはじめ、感染症を減らしていく努力を続けたいと思います。

幼児院の運営



昨年より継続中

ブルキナファソで運営する幼児院は、今年は52人の子どもたちがここに通っています。この施設では2人の先生がおり、衛生教育を含めた教育の提供と、料理担当者による栄養も考えた食事の提供を行っており、子どもたちの健康を保ちます。

幼少期から子どもたちが遊んだり生活していく中で、楽しみながらも学べる環境の提供は、将来への教育効果としても大きい事が示されております。また親もこの幼児院に子どもたちがいる時間に働くことが可能となり、地域にとって必要なものとなっています。

これからの未来に羽ばたく子どもたちに、少しでも貢献し、さらにこれからも地域に求められ、愛される施設となれるように、私たちも現地と共に努力をしていきたいと思っています。

Bangladesh

新型コロナウイルス対策

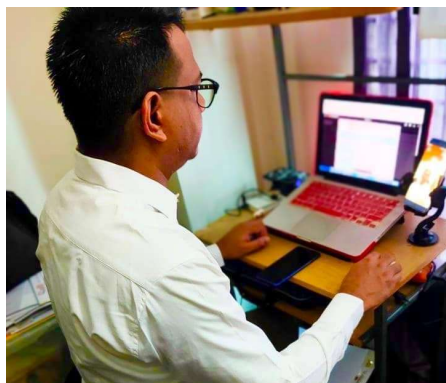


2020/6

バングラデシュでは2020年6月では新規感染者数が連日3000人ほど見つかり、また死者数も1000人を超え、連日50人程の死者が出ています。飢餓、貧困問題も再燃し、検査も治療薬も全く足りません。そこで我々はキングストン病院を中心に近隣の病院とも連携し、電話や遠隔診療で無料相談、PCRで診断し、首都に2箇所のイベルメクチンを中心とした薬の無料配布所を設置、配布開始しました。入院治療が必要な場合にも対応します。

現在まで276人の治療に成功（うち24人は酸素治療が必要でした）し、さらに現在304人の治療に取り組んでいます。

また、それに加えて、病院に来ることができない人々のために、検体採取するためのチームを現在編成しています。



2020/7

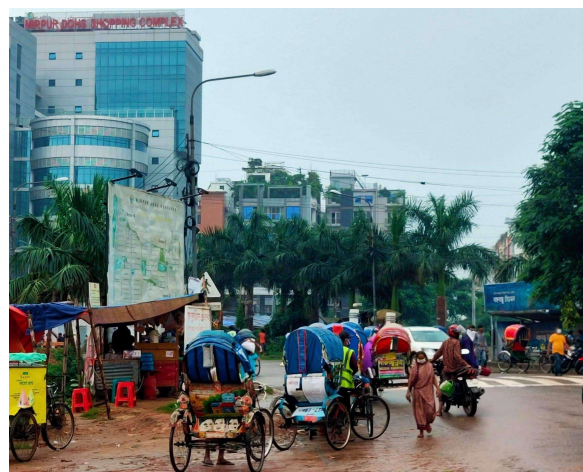
遠隔診療を 2020 年の 4 月 2 日から無料で行い、イベルメクチンを主体とした治療を提供し、現在までで 2667 人の治療に成功しています。今回は首都ダカの 2 箇所の薬局に加え、新たに首都の周辺の町の薬局にも遠隔診療を導入しました。

他院に入院中で、状態の悪い 1 人の患者さんが呼吸器装着をしなければならない状況に陥りかけましたが、この治療提供後に呼吸器装着を免れ、症状改善が見られています。

バングラデシュでは依然として新型コロナウイルス感染症が猛威を奮っており、6 月末までで 14 万人近くの感染が判明し、少なくとも 1738 人が死亡しています。医師も 44 人が亡くなりました。

問題も多く、例えば医師の治療についての知識が不足しており、明らかな理論的な間違いのある治療も多く行われている現実があります。

患者の命を最優先とした治療を行うため、私たち FutureCode は努力を続けます。



2020/7

2020 年の 7 月の時点では、依然日々 3000 人前後の感染者が報告され、まだ死者数に関しても減少傾向がない状況にあります。PCR での新型コロナの診断はまだ追いついておらず、首都では病院自体が新型コロナ感染の疑いがある患者の入院治療自体を拒否する、などのケースも多く報告されていますが、私たちは肺炎の症状等での入院治療も継続しています。

現在、治療と並行して、私たちは政府や軍病院などと話し合いを重ねながら、日本からの皆様のご支援の力もお借りし、新たに PCR 検査センターと、治療隔離施設の開設を急いで進めています。現状から月当たり最大 1000 件程の検査能力拡大が可能となります。またそれに対応する治療施設の候補の建物を選定開始しています。

バングラデシュの状況は混沌としており、把握できる部分もわずかですが、少しでもこの急速な世界的な感染拡大を止めることができるよう、このバングラデシュの地でも努力いたします。

孤児院衛生教育活動



2020/12 70 名の子供達が生活をしている孤児院で正しい手洗い方法について実践教育を行いました。新型コロナウイルス感染症予防対策としても、また他の感染症を防ぐためにも「手洗い」を知る事は重要です。

「今までにこのような、正しい手洗い方法を学んだことがなかった」とのことであり、手洗いの方法を実際に見てもらった後、数名の子供達に手洗いをしてもらった結果、とても丁寧に学んだことを実践することができました。子供達の学びたいという意欲も強く「こういう役に立つことはどんどん積極的に学びたい」という声も聞かれました。

「自分が手洗いをするので見て欲しい!」という子ども達も多く、今後は多くの子ども達が手洗いを実践するのを見守ることができ、石鹸なども使う手洗いプログラムを定期的に行いたいと思います。

お昼ご飯の時には、しっかり学んだことを実践できているか、こっそり覗くと、手順を1つずつ追って丁寧に手洗いをする姿が見られ、吸収の速さに対する驚きと共に、私たちとしても、とても嬉しくなりました。

今後もこのような衛生教育も含め、少しでも子どもたちの未来に役に立つ活動としていけるよう、私たちも努力を続けたいと思います。



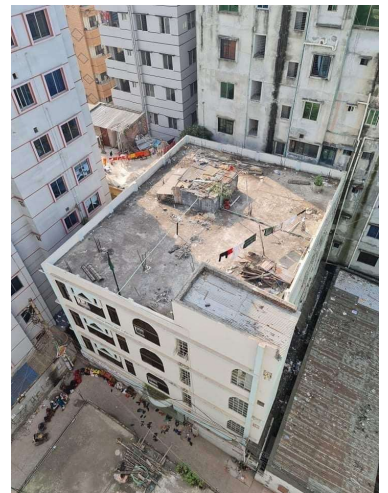
2021/1

バングラデシュのモハマドプールにある 74 名の子どもたちが暮らす孤児院で、46 人の子どもたちに対して健診を行いました。

多くの子どもたちは健康な状態ではありましたが、一番多く見受けられる問題は、他の孤児院でも同様ですが、ダニが原因となる皮膚病、疥癬です。

今後、この孤児院では、この疥癬をなくすためにも、衛生状態の改善を行うためにサポートしていくこととしています。衣服や寝具などの洗浄回数などを強化し、また手指洗浄だけでなく体の衛生状態の改善もサポート、アドバイスしていく予定です。

新型コロナ感染症拡大もあり、予想されたように世界中で支援が難しくなるなど困難は多い現状ですが、元々の一つ一つの問題の改善を続けることも忘れてはならない大切なことでもあります。



2021/3

2021 年 1 月の前回に引き続き、バングラデシュのモハマドプールにある 75 名の子ども達が生活をしている孤児院で、何らかの症状を訴える子供達 31 名に対して、検診を行いました。主に、咳嗽、鼻水、発熱など（15 名）、皮膚掻痒感（11 名）の訴えが多く見受けられました。前回の検診後より、疥癬対策として「寝具を全て、日に干したり洗濯し、清潔に保っています」と孤児院スタッフからの報告があり、改善の努力が見られます。

また、寄生虫が原因と考えられる症状である、肛門の痒み、食欲不振、腹部の腫れを訴える子どもたちが全体の 30%ほどに上り、今回は新たにこちらの孤児院で生活をしている 75 名の子ども達に対し、寄生虫駆除プログラムを開始しています。このプログラムでは、半年に 1 回 1 錠（約 6.5 円/1 錠）の駆虫剤の薬を無料配布し、治療を開始。その後は症状のあった子ども達からは寄生虫が駆除され、食欲も戻り、症状がすっかりと改善しています。

バングラデシュでも新型コロナウイルス感染症は再び拡大しており、現在、再び都市がロックダウンされる事態の最中ではありますが、私たちもできることを少しでも行動していきたいと思います。

Japan

講演会・講義



2020/7/8

兵庫医科大学にて代表 大類が「医療入門」で途上国における国際保健についての講義を行いました。今回は久々の教育現場での講義でもありましたが、今回はオンラインの併用であり、実際に教室に来られていた学生さんは少ないものの、しっかりと皆、距離を取りつつ新型コロナウイルス感染対策をされた中で進められました。その中でも、特に医学部だけあり、途上国での医療現場についての高い関心を感じました。

講義の中では、実際に私たちがバングラデシュやブルキナファソで行なっている新型コロナウイルス感染防止の活動や、また開始した治療や診断、そしてこれからどう迅速に活動するのか、など実際の今の我々が直面している問題が語られます。さらには一国だけの問題には終わらず、変わってしまった世界の中で、我々は医師として、どういう視野を持ち生きていくべきなのか等にも話は及びました。

今日の講義が少しでも、医師を目指す学生さんたちに意味のあるものとなるなら幸いです。



オンライン開催 第22回
グローバルインサイトセミナー

海外への冒険
-外科医・救命救急医として経験を積む-

Bangladeshなど貧困地域の
医療支援活動からみえる、
これからの世界との
向き合い方とは？

大類 隼人
認定NPO法人
Future Code
代表理事・医師

講師紹介
元兵庫医科大学 呼吸器外科 救命救急科 兼任
助教。認定NPO法人Future Codeを設立。途上
国で医療支援活動や人材育成に取り組む。米
国リーズ大学院にて国際公衆衛生学(MPH int.)
マスター取得。新道三段。

日時 2020年7月22日 (水) 16:00-17:30

参加方法 ビデオ会議システム zoom 先着100名まで
QRコードまたはメールで申し込んでください
折り返し参加方法をご連絡します

問合せ先: 島根大学国際交流センター



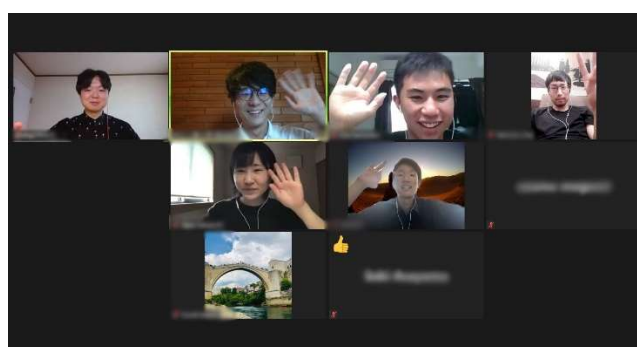
2020/7/22

島根大学グローバルインサイトセミナーに代表の大類が登壇させていただきました。今回は完全なオンライン開催であり、医学部、人文学部、工学部などの学生さんが参加されています。内容としても、活動の紹介だけでなく、講義中に学生さんからの質問にも答えていきながら進めます。これからの未来にどのような生き方をすべきか、どんな想いで現場に臨んでいるのか、または世界の中にある日本という視点からの考え方など、深いテーマにも話は及び、講義後にも学生さんから、印象に残った話についてや、いかに今日の話を自分の中に生かしていこうと思っているかなど、多数のコメントが寄せられました。未来に羽ばたく学生さんたちにとって、少しでも有益な機会となったならば幸いです。

Future Code BYCS (学生部の活動)

2016年に発足した学生部BYCSも今年度も新たなメンバーを加え活動しております。2019年に販売開始となった、ブルキナファソで作られたシアバターを原材料にしたハンドクリーム「ハダニシア」の販売などを行っています。これは現地の雇用を生み出し、売り上げを医療支援とするために開発されたFuture Codeの商品であり、日本での販売促進を行う事がそのまま国際協力につながるものです。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学生部はオンラインを中心に活動をしています。オンラインでの活動が主軸となったことで、関東地区の大学生がメンバーに加わったり、他学生ボランティア団体との交流が増えたりと、活動の幅が広がった1年になりました。私たちは主に2019年に販売開始となった、ブルキナファソで作られたシアバターを原材料にしたハンドクリーム「[ハダニシア](#)」の販売を行っています。これは、現地で製造が女性に限られるシアバターを使用することで、女性雇用を生み出し、売り上げが医療支援につながるFuture Codeの商品です。その他、学生部 BYCS の活動はハンドクリームの販売のみならず、イベントでのブルキナファソの紹介や、学生が行う国際協力についてメンバー同士で積極的に議論しています。学生部 BYCS は国際社会で生きる人材育成の場となっています。



(写真：オンラインミーティングの様子)

・イベントへの参加

学生部 BYCS は国際協力関連のイベントに積極的に参加することで、私たちの活動を広めていく機会をつくっています。今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面でのイベントに参加する機会が少なく、オンラインイベントへの参加が中心となりました。対面でイベントに参加する場合は、手指消毒や検温等の感染対策を行いました。

2020/10/20【灘中学校での活動紹介】

神戸市灘区の灘中学校3年生「公民」の授業にて、Future Code 及び学生部 BYCS の活動紹介を行いました。活動紹介は、地域のNPOの活動や課題を知り、中学生の視点で解決策を考えるという授業の一貫で行われました。

それぞれ7名程度で構成される、2つの班に向けて説明を行いました。限られた時間の中で鋭い質問もあり、神戸発のNPOとして、また社会の課題に取り組む学生として、学習の助けになったと感じています。2020年12月には、灘中学校の生徒の皆さんとFuture Code 代表理事・大類が直接お話し、追加の質問等を受ける、フォローアップも行いました。



(灘中学校での活動の様子)

2020/12/20 【ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2020 Online】

高校生や学生のための国際協力のイベント「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」にオンラインで参加をしました。国際協力・支援に興味のある高校生に向けて、BYCSの活動を紹介しました。学生部 BYCS の活動紹介動画がイベントのホームページに掲載されており、以下のリンクからご覧いただくことができます。

動画：[ワンフェスユース 2020 ONLINE | ワン・ワールド・フェスティバル for Youth \(owf-youth.com\)](https://www.owf-youth.com/)

2021/3/12 【神戸セレクション 2020 内覧会】



(内覧会での出展ブースの様子)

2019年11月にハダニシアは神戸セレクション 2020 に認定されました。

この度、その内覧会に出展しました。訪れた方に「頑張って」など、温かいお声を頂きました。神戸の街で生まれた品物が豊富に展示されており、改めて神戸の魅力を感じることができました。

2021/3/12~14 【インクルージョン・フェス 2021】

コロナ禍で対面イベントのほとんどが中止となった中、2021年3月に神戸マルイ様で開催された「インクルージョン・フェス 2021」(SDGs や多様性を推進する取り組みを行う団体の活動を紹介するイベント)に参加しました。実に約1年ぶりとなる対面イベント参加でした。私たちの活動を応援してくださる方と直接お話す時間もあり、ハダニシア事業達成への想いが一段と強くなりました。



・広報活動

【ハダニシアホームページのリニューアル】

2020年11月に、これまで開設していたWebショップを閉設し、新たにBASEでショップを開設しました。新しいホームページではブログ機能を利用することで、これまでよりさらに、BYCSやハダニシアの魅力を伝えるコンテンツを増やしています。

新しいホームページはこちらから↓

www.hadanishea.com

【キャンペーンの実施】

2020年は、バレンタインデーフェア（ラッピング無料）、ホワイトデーフェア（ラッピング無料ならびに限定ラッピング追加）、母の日フェア（ラッピング無料）、クリスマスフェア（送料無料）などのキャンペーンを行いました。新型コロナウイルスの影響で、作業や販売がオンライン中心となりました。これらのキャンペーンを通して、より多くの方々に私たちの商品を届けることができた実感しています。

【ハダニシアお取り扱い店舗様との企画】

ハダニシアをお取り扱いいただいている店舗様との広報企画を2つ行いました。お取り扱い店舗である、「ゲストハウス神戸なでしこ屋」様にインタビューのご協力をいただき、ハダニシアのホームページにおいて、お店の魅力をお伝えする記事を掲載しました。また、神戸元町のヘッドスパ専門店、「muladhara spa（ムーラ・アダーラ スパ）」様とInstagramでライブ配信を行い、ハダニシアの魅力をお伝えしました。

記事はこちらから↓

・ [神戸なでしこ屋様](#)

・ [muladhara spa 様](#)

インスタライブはこちらから↓

[hadanishea / ハダニシア \(@hadanishea\) · Instagram 写真と動画](#)